

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2011 年 11 月号 (第 44 号)

発行責任者 加曾利 厚雄



湯気がかけ
 笑顔はしほる
 芋煮会

倶楽部「芋煮会」の一コマ 23.10.26

第四期事業を振り返って

事業の成功は会員各位の協力の賜物！

副会長(事業部長) 渡邊 浩平

今期の事業は、“サークルの協力”抜きでは語れません。事業はすべて理事会とサークルの共催を基本として行われました。これは、人材豊富な会員の集団(サークル)を巻き込んで、倶楽部・会員が一体となって事業の企画推進をすることで、倶楽部と会員の距離を近づけるという期初目標を具現化するためです。

結果、年間を通して 15 サークルの内 10 サークルが何らかの形でかわりを持ち積極的に参加してくれました。感激です。

事業は夫々特色を持ち、国際問題、地域の問題、食と農の問題、文学文芸、自然探究、等多岐に亘りそれぞれに成果をみました。参加者も予想を上回り、3 月は大震災の翌日、5 月は台風接近の日にもかかわらず 100 名近い参加があり、7 月の「宮沢賢治に学んだこと」には、250 名以上の参加者に資料も足りなくなる嬉しい悲鳴を上げ、しかも一般の参加者が 100 名と、

“成果を地域に生かす”という目標を達成することが出来ました。

これに加え 2 月に、ところざわ倶楽部の将来事業計画のグループ討議が行われ、建設的な意見が出されました。ただ、夏に実施予定であった文化祭が大震災の影響で来期持ち越しになったことは残念なことでした。

この 1 年、事業の実現に協力して下さった皆様に深甚の感謝を申し上げます。

ところざわ倶楽部総会の御案内

日 時 11 月 17 日 (木) 13 時 ~ 16 時
(12 時 20 分受付開始)

場 所 新所沢公民館

資 料 当日配布

その他 議事前に「音楽連・市民大学派」及び旧「おたまじゃくしの会」と皆で歌おう。

「芋煮会」大盛会のうちに終了

10月26日(水)、今期最後の倶楽部事業である「芋煮会」が、計画どおり、山口の農家民宿「コロット」で開催され、約60名の参加を得て、大盛会の内に終了しました。当日は木枯らし一番が吹くという気候ながらまあまあな天気で、参加者の多くは加曾利会長の案内で西武球場駅から狭山丘陵を散策しながら到着。その後、民宿の内外で三々五々交流の輪ができていきました。落花生の収穫体験に参加する人もおりました。

会は、オギノエンファーム代表荻野茂喜氏の講演を皮切りに、定刻に開始され、続く倉品真希子さんのアルパ演奏と続きましたが、自らの理想に向かって妥協せず、有機農業に関わる事業を拡大していく情熱を語った荻野氏の講演も、倉品さんの澄んだ優しい音色の

アルパ演奏も本当に素晴らしいものでした。

予定の時刻から芋煮の配食が始められると、皆さん“待ってました”とばかり鍋の周辺に集まってきました。スタッフは、皆さんに一番美味しい状態の芋煮を食べて貰おうと前日から仕込み、配食予定時刻に合わせて煮込んだ2種類(牛肉入り醤油仕立てと豚肉入り味噌仕立て)の熱々の芋煮を、それぞれの希望を確認しながら盛り付けに大わらわ。参加予定人数の約2倍の量が用意された芋煮も、会終了時には鍋の底が見える状態になり、大好評の内に芋煮会を終えることができました。この会を企画し、準備・実行に携わった「所沢の自然と農業」、「地域の自然を考える会」の皆さん、本当にご苦労さまでした。(理事 高橋 記)



仕込み中の女性スタッフ



挨拶に立つ加曾利会長



落花生の収穫体験



大鍋に煮込み中の芋煮



荻野茂喜氏



熱心に講演に耳を傾ける



お好みの芋煮に思わず笑顔



倉品真希子さん



美しい音色にうっとり



お土産の野菜を手に笑顔で帰途に

ご紹介

「所沢の自然と農業サークル」は、今年7月から施行された「所沢市ひと・まち・みどりの景観条例」策定に当たり、景観市民会議段階から参画し、景観まちづくり推進施策の一つである「景観市民活動クラブ」に登録しました。

10月29、30日の市民フェスティバルでは、展示ブースで活動内容の紹介やハナミズキ、オリーブの苗木を配布するなど実活動を開始しました。又、景観まちづくり情報紙の発行も準備中ですのでご期待下さい。ところざわ倶楽部会員の多くの皆様がこの活動に参画されるよう期待しています。(清水)

支え！ 学び！ 遊ぶ！ サークル活動レポート

《地域の自然》

サツマイモ収穫作業

齋藤幸子

「武蔵野の林は檜の木、植物帯からいとはなはだ異なっているが落葉林の趣は同じことである。自分はいしばしば思った、もし武蔵野の林が檜の類でなく、松か何かであったらきわめて平凡な変化に乏しい色彩いちよう(一様)なものとなってさ(左)まで珍重するに足らないだろうと。(括弧内編集部注記)」(国木田独歩「武蔵野」より)

雑木林は、人間が手を入れず放置しておく、やがて常緑樹の林に替わってしまう。昔ながらの落葉樹林を保全すべく、「地域の自然グループ」は2009年度より活動を開始した。すでに常緑樹が生い茂って真っ暗だった林を調査した後、常緑樹を伐採し、下草を刈り、市民に呼びかけて落葉掃きをした。集めた落葉は堆肥となり、何百というカブトムシの幼虫が越冬している。

しかし、落葉掃きをし、堆肥を作って終わりでは、継続



的な雑木林の保全にはならない。活動3年目の今年、は、落葉堆肥を利用して、畑作を行った。里山の循環型の実践である。草地を掘り起こし、堆肥を入れ、5月にサツマイモの苗を植えた。2週間に1度、蔓返しや畑の草抜きを行った。

苗を植え120余日が経過した10月8日(土)には、広報紙などで呼びかけた22名の市民とともに「お話と楽しいサツマイモ収穫作業」というイベントを行った。大堀聡先生の「里山の循環型とは」の講義後、調査区や堆肥置場を見学し、畑でサツマイモを収穫した。収穫時には、収穫量を確認する目的で、株ごとのイモの本数を数えて袋に入れ、教室に戻って株ごとに重さを量った。

1株当たりの最高の重さを予想するクイズがあった。一番重かった株は1.45kgだった。正解者3名には、狭山茶クッキーなどの賞品が出た。他愛ないクイズだったが、イベントは盛り上がった。帰りには1人2株ずつサツマイモを持って帰って戴いた。

今年の冬も落葉掃きを行う。里山の循環型を一部でも体験し、雑木林の保全について、考えて欲しいと思う。

《地域の自然を考える会》

稲刈り(花谷八幡湿地)

前岳良子

4月の「荒起こし」作業から始まって5月の「田植え」作業、そして約5ヶ月後の実りの秋、収穫の秋を迎えての「稲刈り」体験。

10月2日(土)我々サークル仲間と湿地保存会のメンバー及び近所の方々と稲刈りを行なう。稲刈りも初体験。この稲刈り作業が思ったより大変。

すっかり田圃が乾いている状態かと思いきや、まだ、水を含んだ泥んこ状態、その中に大きい板を渡してそれに乗せ、稲を刈っていく作業。中腰状態での作業なので、我々ロートルにはきつく、なかなか歩かない。

刈り取った稲をヒモで括れるように一束一束畦に置いていき、それを束ねる人、束ねた稲を竿に括り付ける人、と役割分担をいくつかに分けて作業を

進めていく。

一方で、脱穀作業を機械で行なう所も見せて貰う。自分達がこうして植えた稲が黄金色に実り、それを収穫して白米として食卓にのり、美味しくご飯を戴く。これこそが自然農業のあるべき姿、そして地産地消へと繋がるのではないかと思った。

当日の天気は曇り空だったが、暑くもなく寒くもなく作業するにはちょうど良い天気、八幡神社の周辺には彼岸花が綺麗に咲いており、保存会の人達からは普段聞けないようなお話を色々聞く事が出来、有意義な秋の一日でした。

日本人の主食である「お米」、そのお米を「荒起こし」から「稲刈り」までの流れを実際に体験し、改めて「米作り」の喜び、そして大切さを実感致しました。



第 18 期市民大学 グループワーク発表会

18 期市民大学編集委員 岡田俊吾 記

10 月 4 日と 11 日、第 18 期市民大学グループワーク発表会が、新所沢コミュニティセンターで、両日併せて 18 期生と事務局 162 名はもとより、講師の先生 7 名、19 期生 78 名、修了生 37 名、一般 49 名の方々をお迎えして実施されました。



生涯学習推進センター金子美也子所長の激励の挨拶を受け、日本の芸能グループの優雅で幻想的な「能と平家物語」から発表が始まり、都市の環境グループの「故郷としての所沢ー所沢カルチャーパーク」、日本の農業グループの「日本の農業に未来はあるか」、地方自治グループの「一選ばれるまち所沢ーを目指して」、音楽グループの「オペラは楽しい」、所沢市史グループの「所沢の鉄道 116 年ー13 の停車場物語」、地域の自然グループの「所沢のみどりを守ろう」、脳の科学グループの「うつ病と認知症の発症の原因と仕組みを将来の為に学ぶ」の学習成果が披露されました。

各グループとも充実した内容で、全グループが自分達からのしっかりした提言を添えて締めくくりました。

御来賓の先生方全員からはご講評と素晴らしい評価を、また 19 期生からも絶大な賛辞をいただきました。

一般客の一人は、来年市民大学に入りたいので、参考にしたいと思い来

場したと話されていました。

この発表会を終えると、あとは閉講式を迎えるばかりとなった

18 期受講生にとっては、安堵感と少し寂しい気持ち
が交差していたのではない
でしょうか。



遂に完成！「ところざわ倶楽部の歌」

音楽連・市民大学派 代表 若山 昭

日本ではこれまで、組織の団結を図るために多くの歌が作られてきました。軍歌ばかり、校歌ばかり、寮歌ばかり、社歌ばかりです。中にはメーデーの歌まであります。加曾利会長から「ところざわ倶楽部の歌」作りを頼まれた時、これまでもカラオケ・サークルの歌等を作っている私は、引き受けるのにそれほどの躊躇はありませんでした。

まず考えたのは詞。古賀政男ではありませんが、詞が姉であり曲は妹です。

歌詞はわたしの印象と理解を素直に詞にしました。次はメロディー。難しいリズムは避け、繰り返しの多い単純な旋律を考えました。

残るは伴奏です。これが一番難しい。編曲者を尊敬してしまう。最近の派手な伴奏のようにはいかないものの、なんとか曲になったと思っ
ていますが皆さまは何かがお感じになるでしょうか。

ところざわ倶楽部の歌

作詞作曲：若山昭

時代時勢の 飛沫 <small>としぶき</small> かこの身を 洗うとも	文化・芸能 学びつつ	「学び」の灯 <small>あかり</small> 掲げつつ
流域 <small>りゅういき</small> われまいそ 舵を取れ	自然・環境 守りつつ	歩んでいきます どこまでも
地域を伸ばす ゆめづくり	史跡・散策 世を論ず	歳はとつても この意気や
集いし我ら 青雲の ここにあり	世界に開く ひとつくり	願いは明日の まちづくり
ところざわ倶楽部 ここにあり	集いし我ら 青雲の ここにあり	集いし我ら 青雲の ここにあり

サークル活動計画

■ 興味ある活動に皆さんも参加してみませんか！

<p>アジア研究会 (小椋雄二 2921-7739) 11月定例会 11月16日(水) 13時～17時 中央公民館 8、9号学習室 DVD鑑賞予定 12月定例会はサークルの総会を予定 日時、場所未定</p>	<p>ダースの会 (齊藤昌弘 2998-0406) 11月16日(水)課外活動・紅葉ハイク 11月国立劇場・歌舞伎「曾根崎心中」鑑賞会 12月14日(水)定例会・近藤先生の特別学習会</p>
<p>傍聴席 (高垣輝雄 2926-7164) 11月21日(月) 定例会 14時～(日時変更につき注意) 場所：新所沢コミュニティセンター別館5号室 内容：出前講座 所沢市選挙管理委員会 「所沢市長選の結果と問題点」</p>	<p>地域の自然 (加茂恵三 2944-6554) 11月12日(土)調査区の枝片付けと畑地の整備 11月19日(土)臨時ミーティング 14時～ 11月26日(土)落ち葉掻き準備打ち合わせ他 12月10日(土)詳細未定</p>
<p>楽悠クラブ (甲田和巳 事前連絡は不要) 11月07日(月) 13:15～ 中央公民館 8・9号室 楽劇「神々の黄昏(第1・2幕)」DVD鑑賞 12月06日(火) 13:15～ 中央公民館 8・9号室 楽悠クラブ総会/楽劇「神々の黄昏(第3幕)」DVD鑑賞</p>	<p>歴史散策クラブ (大河原功 2943-2004) 11月19日(土) 民話の里/日明神社、寺明院 11月26日(土) 役員会/総会資料の検討 場所・時間：新所東公民館 9:30～ 12月10日(土) 総会&忘年会</p>
<p>楽悠クラブ (甲田和巳 事前連絡は不要) 11月07日(月) 13:15～ 中央公民館 8・9号室 楽劇「神々の黄昏(第1・2幕)」DVD鑑賞 12月06日(火) 13:15～ 中央公民館 8・9号室 楽悠クラブ総会/楽劇「神々の黄昏(第3幕)」DVD鑑賞</p>	<p>ドラマティック・カンパニー (八木雅子 2995-0148) シェイクスピア「十二夜」を読み進めます。 11月19日(土) 12月3日(土) 12月17日(土) 時間：10:00～12:00 場所：新所沢コミュニティセンター別館</p>
<p>地球環境に学ぶ (塚本二郎 2942-3113) 11月15日(火) 15時～新所沢コミセン別館5号室 定例会・各自勉強の発表 ・新人会員勧誘方策について 12月20日(火) 15時～定例会、忘年会の予定</p>	<p>葵の会 (池田新八郎 2940-0711) 11月10日(木) 定例会 午後3時～5時 場所：新所沢コミュニティセンター別館 テーマ：源氏物語 夕顔巻 ※ 時間・場所例月と変更。注意して下さい。</p>
<p>地域の自然を考える会 (前岳良子 2928-7334) 11月27日(日) 収穫祭(餅つき) 糍谷八幡湿地 11月29日(火) 定例会(浅草探訪) 12月27日(火) 総会兼忘年会</p>	<p>野老澤の歴史を楽しむ会 (嶋崎永司 2948-7331) 11月22日(火)「歌人三ヶ島葎子の生涯」の講演 13時30分に生涯学習センターへ集合 12月15日(木)野老澤の歴史をたのしむ会総会</p>
<p>公園を楽しむ会 (竹内隆造 2922-3711) 12月1日(木) 日本銀行・貨幣博物館見学 8:20 所沢駅東口改札内集合、8:28 所沢発 12月22日(木) 定例会と忘年会 場所など未定</p>	<p>北欧の会 (樋口俊夫 090-6483-7993) 11月19日(土) 第26回例会 13時20分 場所：新所沢コミュニティセンター別館 「北欧諸国と日本の交流状況(仮題)」 1月21日(土) 第27回例会 13時20分</p>
<p>所沢の自然と農業 (高橋起彦 2924-2056) 11月8日(火) 定例会 18日(金)「農工商きっかけ作り」に参加 (市農政課主催) 12月2日(金) 御嶽山ハイキング</p>	<p>音楽連・市民大学派 (若山昭 2922-1494) 11月7日(月) (中央公民館 13:00-15:00) 例会 11月21日(月) (中央公民館 13:00-15:00) 例会 12月5日(月) (中央公民館 13:00-15:00) 例会 12月19日(月) (中央公民館 13:00-15:00) 例会</p>

《一寸庵閑話》

・ 一般の動物は、こどもの時は遊ぶが、大人になっても遊ぶのは『イヌと人間』だけだそうです。

南蛮貿易で栄えた小さな町『平戸』に行ってきました。1543年にポルトガルは種子島に鉄砲を伝え、1550年には初めて平戸に来航、以後、オランダ、スペイン、イギリスなどが進出しますが結局オランダが勝ち残ります。島原の乱の『隠れキリシタン』の影響もあり、南蛮貿易が長崎・出島だけに集約されてから平戸は衰退しました。この歴史を、復元されオープンしたばかりのオランダ商館で学びました。平戸は在人口3万4千人で、この40年間で4割の人口減になっています。

・ 最近の地方都市の疲弊・衰退は小泉政権の政策によるところが大きいといわれています。帰りに寄った佐世保でも再開発の広い予定地がそのままになっていました。

またロシアではソ連崩壊後、平均寿命の低下が続いていましたが、『自由』は弱者にしわ寄せされ『弱肉強食』という現実があります。それを政策で支えるのが政治でしょうが。

・ 海辺のホテルの窓を開けると、正面に平戸城や黒子島、うずしお、そしてさわやかな潮風が・・・昭和6年建築のザビエル教会（ザビエルも平戸で布教活動をしたそうです）、落ち着いた教会・寺院通り、オランダ橋（幸橋）、三浦安針の墓、手湯・足湯など平戸には異国情緒が残っています。

・ 夕食でアワビの踊り焼き、刺身等海の幸や平戸牛のステーキを堪能、朝湯のあと朝食の『アゴ(トビウオ)だし』の味噌汁は最高！！ お代わりしました。(#.~#)

今年はロシア料理、大連料理に舌つづみを打ちましたが、やっぱり寿司、味噌汁の日本食にはかないませんね。(ケン・シェイクスピア)

料理コーナー



後藤 律子

生鮭が美味しい季節になりました。今月は鮭と大根の簡単料理を紹介いたします。

・ 材料 <鮭のちゃんちゃん焼き> 2人分

生鮭2切れ、キャベツ2枚、玉葱2分の1、人参3分の1、ピーマン1個、シメジ1パック

★味噌、酒:各大さじ2、醤油、砂糖:各小さじ1
塩、コショウ:少々

・ 作り方

- ① 鮭は両面に塩、コショウをふり、フライパンで両面を軽く焼き色が付くほどに焼く
- ② 鮭をフライパンから取り出す。
キャベツはざく切り、人参、玉葱、ピーマンは千切り、シメジは石づきを切っておく。
これらの野菜を軽く炒める。
- ③ 炒めた野菜を取り出す。
鮭を皮の部分を下にしてフライパンに戻す。
炒めた野菜を鮭の上に乗せる。
- ④ ★印の調味料を混ぜ野菜の上に乗せて蓋をして蒸焼きにする。

<大根の炒め物> 4人分

・ 材料

薄切り豚肉 100g、大根 300g、人参 80g
すりごま:大さじ1、醤油:大さじ2、味醂:大さじ2、
酒:大さじ1、鷹のつめ:少々、炒め油:適宜

・ 作り方

- ① 豚肉は食べやすい大きさに、大根と人参は短冊切りにしておく。
- ② 鍋を熱し、炒め油をしき、鷹のつめを入れて豚肉を炒め、大根と人参を加えてさらに炒める。
酒、醤油、味醂で味をつけ、すりごまをかける。
最後に醤油をサッとかけまわして混ぜる。



秋晴れや千畳敷の忘れ潮
牡丹焚き香り残して燃え尽きし
新蕎麦の幟にのれんくぐりけり
枯葉舞ふたそがれどきの小道かな
秋夕日届き赤らむ竹の節
霧延(は)ひて山一つつ明けゆけり
曼珠沙華本家分家の畑続き
一斉に散りては跳ねる稲子かな
幕間に名画見惚るる秋裕

井出 昇
飯泉 陽子
荒幡千鶴子
平栗 彰子
中村 直子
利根川啓一
高光 泉
高橋 三郎
鈴木 征子

秋の雲入り日に翳の透けにけり
初秋刀魚復興支援の幟立つ
見上ぐたび風に向き変へ赤とんぼ
夕月や狐となりて巫女の舞ふ
ト口箱の十株程の稲実る
蓮の実の飛びて秩父の古刹かな
採り残す垣の向かふに花茗荷
林道に残る鉄路や散紅葉



海老澤愛之助
岡本 博
粕谷 昇
河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 英子
佐藤 八郎



むさし野俳句会(二十三年十月) 作品抄